月刊都響

January2024

ヤングシート

気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

〇携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
〇演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
　周りの人も演奏を楽しみに来ています。
〇録音・録画、写真撮影は禁止です。

2024
1/13

Subscription Concert

第 991 回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／下野竜也

ピアノ／津田裕也

【ブルックナー生誕 200 年記念】

♪モーツァルト：ピアノ協奏曲第 24 番 ハ短調 K.491（約 30 分）

♪ブルックナー：交響曲第 1 番 ハ短調 WAB101
（1891 年ウィーン稿）（約 48 分）

東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今年2024年は、オーストリアのウィーンで活躍した作曲家アントン・ブルックナー（1824～1896）の生誕200年のメモリアル・イヤーです。今日の演奏会ではブルックナーの交響曲第1番を取り上げます。前半には、ブルックナーの時代から約100年前のウィーンで作曲されたモーツァルトのピアノ協奏曲をお届けします。

♪モーツァルト：ピアノ協奏曲第24番 ハ短調 K.491

モーツァルト

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～91）は、ザルツブルクを去り、音楽の都ウィーンに出てからの10年間に、たくさんのピアノ協奏曲を作りました。最先端の街ウィーンでは、独奏とオーケストラによる華やかな協奏曲が大人気だったのです。1786年3月、30歳のモーツァルトは立て続けに2つのピアノ協奏曲を書いています。先に完成させた第23番はイ長調のほがらかな作品ですが、第24番は対照的にハ短調というシリアスで暗さのある調性で作曲しています。

当時の作曲家たちは、長調の明るい曲想で作曲することがほとんどでした。それというのも、音楽家たちはお金持ちの貴族に雇われ、貴族が気分よく過ごすための音楽や、晴れやかなセレモニーのために作曲することが多く、明るい曲調が好まれたからなのです。しかし、モーツァルトがこのピアノ協奏曲第24番を作曲した3年後にはフランス革命が起こり、社会や人々の考え方は大きく変わっていきました。モーツァルトは、まるで少し先の未来を予想していたかのように、ハ短調で緊張感のある響きを作品に取り入れます。さらに、当時はまだ新しい楽器だったクラリネットを2本も用い、比較的規模の大きな協奏曲に仕上げました。

第1楽章は3拍子の軽快なテンポですが、ハ短調の深刻な雰囲気を漂わせます。中間の**第2楽章**は柔らかな曲想となり、木管楽器（ファゴット、クラリネット、オーボエ、フルート）とピアノが美しい対話を繰り広げます。**第3楽章**はテーマと8つの変奏曲で作られています。

♪ブルックナー：交響曲第1番 ハ短調 WAB101（1891年ウィーン稿）

ブルックナーは、オーストリア北部のリンツ郊外で育ち、教会の立派なオルガンを演奏したり、のどかな田舎の学校の先生として働きながら作曲を勉強しました。ウィーンで本格的に音楽を学び活動を始めたのは31歳になってからのこと。熱心にオーケストラ音楽について学んだブルックナーは、44歳の時にはウィーン音楽院から教授として迎えられるほど、音楽家として尊敬されるようになりました。

「私は交響曲作曲家である。自分の一生をかけた仕事だ」と述べたブルックナーは、交響曲の創作に熱中し、第9番まで作曲しています（番号の付いていないものや、第0番とされる交響曲も残しています）。それらの特徴としてあげられるのは、とても大きなスケールで作られているということ。たくさんの楽器が使われ、時間も長く、1時間を超えるものもあります。管楽器が高らかに鳴り響き、ボリュームや迫力も満点です。気持ちを鼓舞するような力強い主題や、とても甘くロマンティックな主題など、一つの楽章の中でメインとなる主題が3つも4つも

登場し、ドラマティックに場面が変わっていきます。

そんなブルックナーの記念すべき第１番の交響曲は、ブルックナーが 42 歳になる1866 年に作られました。全部で４つの楽章からなり、第１楽章と第４楽章ではこの頃からすでに３つの主題を用いた力作です。しかしブルックナーは、いったん完成させたバージョンに飽き足らず、少しずつ書き直していきました。1868 年の初演から 22 年が経った 1890 年、全面的な改訂をスタートします。1 年ほどかけて完成させたこのバージョンは「1891 年ウィーン稿」と呼ばれています。今日はこのバージョンで演奏されます。作曲家として円熟期を迎えていた 67 歳のブルックナーが、若き日の自分との対話をしながらじっくりと完成させた「第１番」なのです。

第１楽章は行進曲風の第１主題で始まります。弦楽器を中心に提示される美しい第２主題、トロンボーンで力強く提示される第３主題が登場します。**第２楽章**はすこし重みのあるゆったりとした楽章です。A-B-C-A-B という構成で作られていて、３本のフルートが美しいハーモニーを聴かせる印象的な場面もあります。**第３楽章**は少しおどけたような表情を見せる「スケルツォ」の楽章。フィナーレの**第４楽章**には「火のように」という指示があります。エネルギッシュな第１主題、弦楽器で爽やかに奏でられる第２主題、荘厳な聖歌のように響く第３主題が次々と登場し、それらが繰り返されながらクライマックスを形成します。

ウィーンの「ベルヴェデーレ宮殿」

ブルックナーは晩年、フランツ・ヨーゼフ皇帝の好意により、ベルヴェデーレ宮殿の管理人用宿舎で過ごしました。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮　下野竜也　Tatsuya SHIMONO, Conductor

©Naoya Yamaguchi

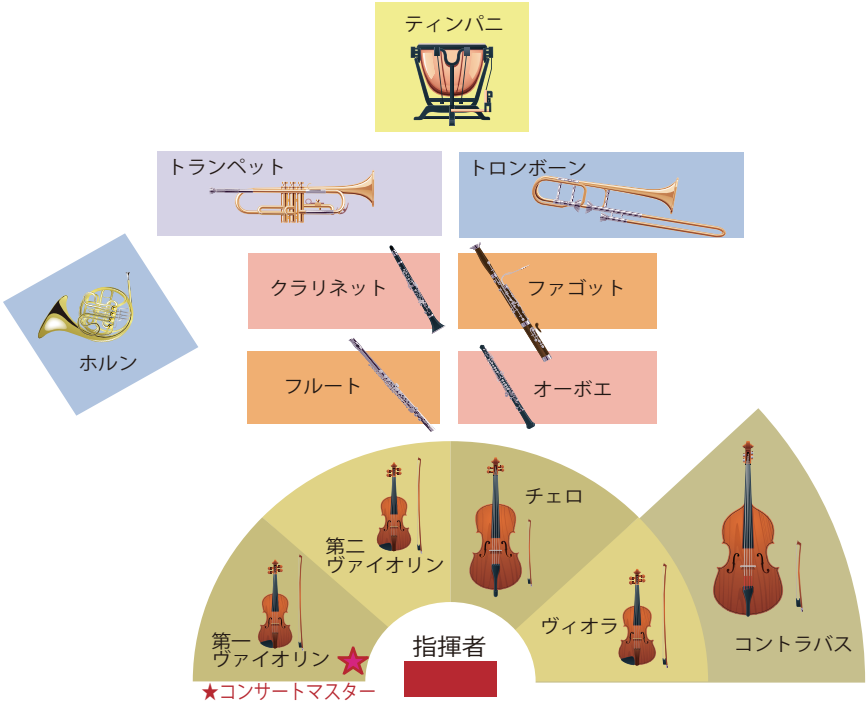
鹿児島生まれ。2001 年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝を機に国内外のオーケストラに招聘され、読売日本交響楽団などの指揮者を歴任。現在、広島ウインドオーケストラ音楽監督、広島交響楽団音楽総監督、NHK 交響楽団正指揮者を務めている。2024 年４月、札幌交響楽団首席客演指揮者、広島交響楽団桂冠指揮者に就任予定。東京藝術大学等で後進の指導にも力を注いでいる。齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞、広島市民賞など受賞多数。NHK 大河ドラマテーマ曲収録（６作品）、NHK-FM『吹奏楽のひびき』パーソナリティを務めるなど、多岐に活躍している。

ピアノ　津田裕也　Yuya TSUDA, Piano

©Christine Fiedler

仙台市生まれ。東京藝術大学を首席卒業、同大学院修士課程を首席修了、ベルリン芸術大学を最優秀の成績で卒業。ドイツ国家演奏家資格を取得。2001 年第 70 回日本音楽コンクール第３位、2011 年ミュンヘン国際コンクールで特別賞を受賞。ソリストとして、ベルリン交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団などと共演。日本やドイツ各地でソロ・リサイタルを開催。ピアノ・トリオ〈Trio Accord〉を結成するなど室内楽の活動に加え、弦・管楽器奏者との共演も多く、共演者から厚い信頼を得ている。現在、東京藝術大学准教授として後進の指導にも力を注いでいる。

オーケストラ配置図（1月13日 第991回定期演奏会Cシリーズ）



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO

東京都交響楽団

　東京オリンピックの記念事業として1965年に東京都が設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

　上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

　2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。